

情報漏えいを完全防止する 非接触の機密文書抹消サービス

日本パープルは、契約書等の機密情報を安全に抹消する機密抹消処理サービスのパイオニアだ。施錠されたボックスから書類を取り出し破砕するまでを「非接触」で行う徹底した品質の追求で、高い顧客満足度を獲得している。

企業には、顧客情報や技術文書、契約書など社内ですべて安全に管理することが求められる書類がたくさんある。保管が不要になったものは順次廃棄することになるが、大量の書類がある企業などでは自社内の量を確認して交換が必要になったら自動発信してくれる仕組みです。(林社長)

回収ボックスに搭載された通信ユニットが廃棄書類の満杯情報を日本パープルのサーバーに発信。その通知を受け利用者側の管理部門担当者のメールに回収日を連絡したメールを通知する。利用企業の担当者は満杯かどうか確認する作業と交換依頼の発注業務をしなくても済むようになるのである。「リモートワークの普及で、管理部門の社員がオフィスに不在となるケースが増えています。しかし確認のタイミングが遅れ満杯になつてしまうと、回収ボックスへ機密文書を投入することができなくなってしまう。スマート保護くんを使えばその心配がなくなり、回収ボックスの確認のために出社

のシュレッダー処理では対応しきれない。そこで外部の機密文書処理サービスを利用するわけだが、その際の情報漏えいリスクを可能な限りゼロに近づけたいと考えるのは経営者として当然のことである。日本パープルが提供する機密抹消サービス「保護くん」は、機密抹消サービス10社を対象にしたサイト比較イメージ調査「安心して利用できる機密抹消サービス」(2021年2月、ゼネラルリサーチ調べ)でナンバーワンを獲得するなど、文書をセキュアに処理できる質の高い機密抹消サービスとして高い支持を得てきた。

まず契約した企業や団体のオフィス内に専用の機密回収ボックスを設置する。金属性の強固なボックスで、一度書類を中に入れると取り出すことはできない。回収時には施錠したままボックスごと運び出し、代わりに空のボックスを同じ場所に設置する。回収したボックスは同社社員が責任をもって自社処理工場に運搬する。運搬車はGPS付きの専用車両で、誤った手順で開けようとすると警報が鳴るなどまるで現金輸送車のようなセキュリティだ。処理施設に運ばれたボックスは

まずエックス線投影機で中身に人物がないかチェック。その後のボックスの解錠、中身を取り出して大型破砕機に投入して処理する作業はすべてロボットアームが行う。人の手には一切触れないので情報漏えいの心配が皆無なのである。ボックスの解錠から破砕までの仕組みは、業界初となるビジネスモデル特許を取得している。こうしたハード面での充実した体制とともに同社が力を入れているのが、スタッフの育成である。社内の教育体制について林社之介社長は次のように説明する。



林社之介社長

「まず新入社員は基本動作や情報セキュリティについての知識を学ぶ研修、オンザジョブトレーニングを3カ月間行います。その後社内審査を行い、コーチ役の社員が合格と判断した社員だけが実際に

するという無駄な業務も防ぐことができます」(林社長)

機密抹消処理サービスを長年展開してきたノウハウを軸に、情報セキュリティ関連事業の多角化も進めている。プライバシーマークやISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)の資格新規取得、更新運用支援を行うコンサルティングを行なっているほか、パソコン内データの機密抹消サービスも展開。ハードディスクなどの記憶媒体を、専用磁気装置による磁気処理と専用装置による物理的破壊(圧迫破壊)の2段階で処理しており、データの復元を許さない機密情報の完全な抹消サービスとして好評を博している。

に業務に就くことができるようになります。また審査に合格した社員もそれで終わりではなく、2年に1度定期的に審査を受けることになっており、意識づけを常に続ける仕組みになっています。

非接触によって安心して機密情報の処理を行えると評判を呼び、現在1万2000を超えている事業者が同社のサービスを契約している。ブラックボックスになりがちな処理施設の見学会を定期的に開催していることも顧客の安心感につながっているという。

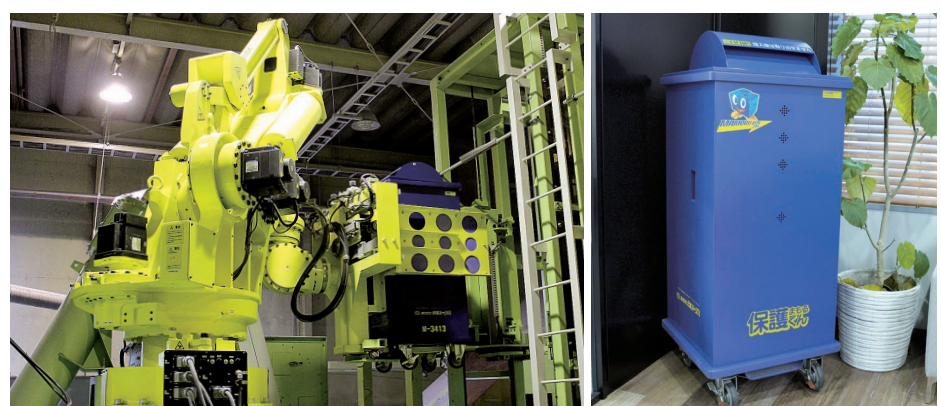
IoT活用の新機能も

1965年、古紙回収業で事業を開始した同社が機密処理事業を開始したのは、創業5年目のこと。パンチカードを安全に処理する事業に参入してから紙に関するセキュリティビジネスを追求してきたが、2代目経営者として2007年にバトンを受けた林社長は、ITの力でさらに飛躍を図ろうとしている。

「回収ボックスの中にセンサーと通信ユニットを搭載した『スマート保護くん』を昨年リリースしました。IoTを活用することによって、人間が確認しなくても中身

マモル、アズケル)も好調だ。机やキャビネット、冷蔵庫などの大型の物品も同社の車両が配送し保管庫に格納。一つ一つの物品を写真撮影して専用アプリケーションにアップロードする。利用者はスマホやパソコンでいつでも物品を確認することができ、必要に応じて取り出して配送を依頼することが可能だ。物品のサイズによって課金する仕組みなので、貸し倉庫やトランクルームよりリーズナブルな価格で利用できるという。

今後は電子契約を含めた契約書の作成、締結、保管、検索、廃棄までをトータルで管理するウェブアプリケーションを提供する予定。企業理念である「あなたの大切なものをまもり続けます」実現を目指し、さらなる事業領域拡大を計画している。



処理工場の作業はロボットが行う

回収ボックス

COMPANY DATA

株式会社日本パープル
設立 1972年5月
所在地 東京都港区赤坂4-9-6 タク・赤坂ビル6階
売上高 約18億円
社員数 90名